

岐大通
2010



内容では勝っていたが...。
大分3-1岐阜【第0節】

FC岐阜はアウェイで大分と戦い、1対3で敗戦。0対2から佐藤洸一が今季初ゴールで1点差に追い上げるも追加点を取られて敗戦。でもリーグ戦は始まったばかり。サポーターが丸となってFC岐阜を盛り上げよう！。FC岐阜頑張れ！。

(ハマッチ)

梅が満開なのは当然ながら、桜もチラホラほころび始めていた九州・大分。しかし、桜の季節といえば、たとえ見頃の時期であっても昼夜の寒暖の差が大きいと相場が決まっている。ましてや、会場の大分銀行ドームは山の上であり、曇り空と相まって開場時間になる頃まで肌寒かった。

岐阜が体験する4つめのW杯スタジアム・大分銀行ドームは大分スポーツ公園の中にあり、ドームから歩いて数分の所には、懐かしのサッカー・ラグビー場。あの形容しがたい緊張と興奮を味わった地域決勝大会から約四年。あの時の選手は、今は誰も残っていないけれど、あの濃密な3日間は忘れちゃいけない。でも、あれは12月のことだったけど、こんな寒さは感じなかった。それでも、ダンマクを貼り、1時間前ミーティングを行う頃には、気持ちも四年前と同じように高揚してきて、カラダもそれに応じるようにアツくなってきた。

そんな中で始まった試合も、岐阜サポをさらにヒートアップさせるように、序盤からペースを握り積極的に仕掛けていく。全体を通し、観ている者を楽しませ、アツくさせるゲームをしたのは岐阜の方。組織的に、そして意図のあるパス回しで、観てて楽しい...。(と言うには、まだ早いかな)少なくとも、これからが楽しみな試合をしたのは岐阜だった。

オマケに、ゴールネットを揺らしたのは、こっちが3回、向こうは2回。ただし、3回の内2回はオウンゴールとオフサイドだったのが残念だ(苦笑)。それでも結果は結果。前半残り5分を切ったからの失点。後半開始早々の、連携ミスからボールロスト。そのリカバーができないうままでの失点が悔やまれる。

流れが来ている時は確実に決めること。選手には改めて肝に銘じてもらいたい。スカパー！では解説者に、「シュート数は少なかったが、フィニッシュの精度は得点にも表れているように、大分に分があった。」と言われて「へ？」と思ったが、「ただ、PKとオウンゴールだから、岐阜もツイてなかったということも正直ありますよね。」と、すぐフォローする辺り、カバーリングは素晴らしいよ、増田忠俊氏(笑)ま、確かに大分10番のシュートは、FKも含めて枠内がほとんどだった。あと、もうひとりの韓国人選手が撃ったミドルも枠内だったし、ということ、今後PKはキッチリ決めようね、押谷くん。どんなシュートも、精度が決め手なのは言うまでもない。あのバー直撃のシュートにはシビレたけどさ。録画を見返しても、シュートに持ち込むステップといい、フントにセンスは持っているよね。ただ、洸一の幻の同点ゴール同様、ゴールにならなければ、勝利には繋がらない。これからを楽しみにしてるよ。

そういえば、洸一は去年の今頃は、まだサブにも入ってなかったよね。初ゴールは第9節・平塚での湘南戦。それから考えると、結果は出なかったけど、開幕戦の左のミドルは強烈だったし、昨季以上に期待していいような気がする。期待せずにはいられない。この2トップに中盤から彼やアイツが絡んで...、なんて妄想が広がって、もうどうしようもないので、とっとと現実にしてください、甲府戦で。(ぐん、)

降格してきたチームとのリーグ初戦として拾ってみると、FC岐阜は分が悪い。08シーズンは、甲府・広島とはドローで横浜FCには負け。昨年はヴェルディとはドローで札幌に負け。もちろん、トップカテゴリーにおいては実力不足を突きつけられたとしても、2部ではブイブイいわせてくるわけで、落ちてきたクラブ関係者は「こんなトコ(J2)は1年以上いるところではない。我々は昇格のその先を見ている」なんてプレスに応えたりする。ほくら J2にいる側からすると「上から目線しやがって...」と思いつつも、内心どこかで、そういう強気のコメントを相手に「退いて」しまうような感じて、思い当たらないかな？白状するけど、ほくらにはそう感じてしまう傾向がある。

でも、今年は違った。昨年の天皇杯で8強まで行った、ちゃんとJ1のクラブ(千葉)を倒して行った、そのことによる自信。だから、この大分戦は個人的にすごく愉しんだ。

結果、1-3で敗戦。でも、観に行った甲斐はあった。びっくりするくらい高く位置する左SBのノガからは、開幕戦の「ゾーンディフェンスをこなすのに精一杯で」みたいな感じはどこからか感じられない。橋本が秀人を信頼してるから、安心してボール捌きで輝きを放てる。一方の大分からは、あえて言うところ「個人技頼み」としか思えないようなサッカーで、全然チームとして完成しそうな感じにも感じられた。

で、その「個人技」で沈められてしまふんだな(苦笑)。PKを奪われたシーン。ノガのタックルが若干早かった、そのタイミングを見逃さずちゃんと引っかけ倒れるのは現役韓国代表、2月に行われた東アジア選手権の日本戦でも背番号15でスタメンを張ったキム・ボギョン。実に余裕があったPKを蹴りこまれてしまった。1-2となって同点を狙い攻めるFC岐阜に対し、後半の終わり近くに、左上隅に「こりゃあどうしようもないや」というコントロール・ミドルを蹴りこんでくれたのも彼。際立ってましたね。

でも、それ以外は岐阜のゲームだった。特に、2点目を取られてスクランブル投入された嶋田正吾。ゴール裏で見ていたほくらも、あのスルーパス、昔ながらの表現で言う「キラーパス」にはだまされた(笑)。絶対、左オープンフリーの選手に出すと思ったもん。あの時間帯は、間違いなく『岐阜タイム』がやって来ていた。オフサイドになったヘッド、バーに嫌われた押谷の技ありの右足。そこで「仕留める」ことが出来るかが、試合の流れも結果も決めてしまう。残念だけど、FC岐阜は現役代表級は呼べない。だから、「個人技頼み」でない、チーム戦術の徹底に活路を見いだして勝利を目指す。負けはしたけど、その方向性に間違いはない。ほくらは間違った道の上にはいない。それが確認できた大分戦だった。(吉田鑄造)

グリーンズ参加者から
お知らせします

今日の試合も含めて、ホーム3試合は昨年同様長良川競技場にて試合が開催されますが、現在改修工事の為に競技場のトイレが使えません。そこで「野球場・ブルームのトイレ」又は「スロープ下の仮設トイレ」を使用して頂くのですが、開幕戦では野球場とスロープ下の仮設トイレは非常に混雑していたようでした。一方ブルームのトイレは比較的空いていたようなので、そちらの使用をお勧めします。あと、トイレも含めて席を離れるときには必ずチケット半券を持参して下さい。再入場等の時に必要となりますよ！(シュナ)

today's guest

ヴァンフォーレ甲府

2009 J2第4位
J2通算対戦成績 :0勝3分3敗
2009成績

第0節 09/03/15 岐阜0-1甲府
第3節 09/08/09 甲府2-2岐阜
第4節 09/09/27 岐阜1-2甲府

2010J2 順位表 第0節

(※消化試合が1少ない)
勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	福岡	06p	+5	6	1
2	徳島	06p	+3	4	1
3	横浜FC	06p	+3	3	0
4	千葉	04p	+2	3	1
5	水戸	04p	+1	3	2
	熊本	04p	+1	3	2
7	柏	04p	+1	2	1
8	大分	03p	+1	4	3 A
9	岡山	03p	0	1	1
	愛媛	03p	0	1	1
11	岐阜	03p	-1	3	4
12	栃木	01p	-1	1	2
13	甲府	01p	-2	2	4
14	鳥栖	01p	-2	1	3
15	札幌	01p	-3	1	4
*16	東京V	00p	-1	1	2
*	富山	00p	-1	1	2 H
18	草津	00p	-2	0	2
19	北九州	00p	-4	1	5

次回 HomeGame

第5節
コンサドーレ札幌戦

4/4(日) 13:00
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)
3/20号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当: ささたく & 吉田鑄造

編集子より
ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願い致します。

東海北陸道南北対決・第1戦は 南の逆転勝ち！ 岐阜2-富山【第0節】

FC岐阜は長良川で富山と戦い2対1で逆転勝ち。前半に先制点を取られる厳しい展開も嶋田と押谷のゴールで逆転勝ち。次の試合も頑張ってくださいね。サポーターが一丸となってFC岐阜を盛り上げよう！

(ハマツチ)

やはり開幕戦ということもあり、練度に関しては両チームとも手探りの部分があり無理をしない立ち上がりだったと思う。両チームとも堅守速攻を目指しているようだが、岐阜の仕上がり具合がわずかに富山を上回っていたと思う。全体的には岐阜のペース。それだけにミスがらみでカウンターから失点したのは不運だったが今年の岐阜は後半からがひと味違う。早めの交代で嶋田が入るやいなや、相手守備陣をまさに「引っ掻き回す」活躍ぶりで拳句の果てには最初のシュートを決めて同点に追いつくことができた。

そしていきおいそのままに逆転。富山の守備陣が少しずつウチの選手を捕まえられなくなってきていた中で逆転劇だった。まさに昨年同様の走り勝ちサッカー。去年の良いところをベースに倉田新監督の打ち出すコンセプトがチームに徐々に浸透してきているのを実感できた。

(ST57)

開幕戦の富山戦。当初は早くも3/20の甲府戦からと言われていた電光掲示板が試験運用でありながらも、前倒しで運用開始に。初めて掲示板に映像が映し出されたときや、スターティングイレブンの発表で選手の写真つきで紹介されたときなど「すげー、ホントに」リーグのスタジアムみたいって俄然テンションの上があったこと上がったこと(笑)。

特に印象的だったのは、山内 嶋田、押谷 田中と選手交替のときにINの選手とOUTの選手と両方の選手の顔写真が表示されたこと。いろんなスタジアムでサッカーを見てきたけれど、こういった表示のされ方は多分初めてのような気がする。まだ試験運用中ということ若干改良の余地はあるのかもしれないけど、本運用になった時には動く映像など見られるようになるのかな？今から楽しみである。(岐阜の誇り)

いよいよ開幕しましたね。駐車場から長良川競技場まで歩いてると、選手が乗っているバスに遭遇！恭平さんに手を振ったら、振り返ってくれました。いきなりいいことありました(〇〇)

試合は、前半はPKを外したりと流れをつかめず終わってしまいました。後半は途中交代の嶋田さん、さらには、ドリブルから押谷さんが決めてくれました。プレシーズンマッチと同じく、後半はしっかりゲームを作って、ゴール前まで攻めることができてましたね。これはハーフタイムでの修正や選手と監督との疎通がうまくいっているからなのかな？いずれにしても、チームが熟成している証なんでしょう。

試合が終わってからのインタビューはなかなか笑えましたね。倉田監督も勝利で興奮されていたのか、サポーターの笑いを誘うインタビューでした。嬉しさ全開でしたね。選手のみなさん、寒いなか、お疲れ様でした。長いシーズンの始まりです。いろいろ厳しい闘いが続きますが、一緒に闘いましょう。選手のみなさんとパンザイ。できたのは感動してしまい、号泣してしまいました。

自分は4月から長野へ転勤となります。この試合が転勤前の最後の観戦となりました。旅立ちの前に、FC岐阜から大きな力をいただきました。これを読んでいただいているサポーターのみなさん。これからもスタジアムへ足を運んでください。選手にたくさん声援を送ってあげてください。自分の分、いや、それ以上に。FC岐阜とFC岐阜サポーターは、自分にとってオンリーワンです。それを誇りに長野へ旅立ちます。ありがとうございました。(たつぽん。)

どんな試合でも勝ったほうがウレシイ。時には又も観戦することもあるが、岐阜が勝つのが最高に楽しいに決まってる。そんな中で、勝ちたい、勝たせたいという気持ちの上に「コイツらにはゼツタイ負けたくない！」って思いが湧きあがる相手だと、さらに闘志が燃え上がるのは当たり前。ボクにとって、富山はそんなクラブのうちのひとつ。JFLの時は、前身のYKK・APにもアローズにも勝てなかったし、昨季の第1クールは0-3の完敗。しかも、この試合、富山のコア・サポというカタスキの中はそんな多数じゃなかったけれど、誰もが跳んでたように見えたり、手拍子のときは全員が手を頭上に掲げていたから、それがとてもキレイに思えて、自分自身も完敗したように感じた。

オマケに、富山のGK中川がまたコニクアラシイ選手で(苦笑)、体はそんなに大きくないのにボールに対する反応を始め、「何で」1行かないの？」と不思議に思うくらい能力の高さ。富山サバが「神」と呼び、昨季のMVPに選ばれるくらいに納得の守護神。だからこそ、中川からゴールを奪いたい、ぶち込んでやりたいという気になってくる。「東海北陸ダービー」という名称は範囲が広すぎて未だに慣れないけど、こういう気持ちがダービーというもののなかもされない。しかも、今季の開幕戦。初めてのホーム。過去2回の開幕戦はいずれもアウェイだったし、そのうえ天候が雨というコンディション。テンション上がる材料は溢れるくらいに揃ってたわけだ。そんな相手に2-1の逆転勝ち。それも、劣勢を一気に反転させる、文字通り疾風のような、登場直後の嶋田の同点ゴール。そして、決勝ゴールを決めたのがPKを失敗した押谷という、脚本にも書けないような劇的さ。雨の中集まった我々に「今季も長良川劇場健在だっ！」と嬉しくさせてくれる勝ち方だった。倉田監督のインタビューも「語録」ができそうな勢いがある、今後の楽しみがまた増えた(笑)返す返すも、満員じゃなかったのが残念だ。選手入場時のコレオグラフィーも人数が集まっている部分はよく出来ただけに、もっともっと大勢でやったらスゴいだろうな。装いも新たになった長良川競技場、来年のホーム開幕戦は満員にして、今回のようなコレオグラフィーをやりたいね。(ぐん)

いよいよ、待ちに待った2010年のJ2リーグ。その開幕戦を、初めてホームで迎えることができる。先週のPSM名古屋と1-1で引き分けた記憶も新しく、しかも富山との「東海北陸ダービー」、いやでも気持ちは昂ぶってくる。あいにくの雨が少し恨めしかったけど...さて、スタメン発表。試験運用された電光掲示板に選手が顔写真つきで紹介されると、どよめきと感動に沸くホーム観客席(笑)。いやいや、こんな映像がメモリアルで見られるとは...よし、これで富山県陸のオーロラビジョンにも勝った！なんて事を思った瞬間。予想通り、先週のPSMと同じ布陣で臨むチーム。先週よりも戦術が浸透したためか、相手の格が違うためか、先週よりもゾーンディフェンスが効果的で序盤から岐阜のペースに。そして押谷がPKを得て、よしこれで先制...と思いきや、なんと富山GK中川に止められてしまう。先週のPSMでも、押谷がGK嶋崎との1対1を止められてしまった光景が思い浮かび、なんだか嫌なイメージ。それが悪い方向に当たってしまい、ゴールラインを割ったかな？と見えたクロスボールから失点。このまま流れが相手に渡ると...と不安になったが、逆に落ちていたように追加点を許さず、そのまま前半終了。

後半開始早々ベンチが動く。嶋田を投入して菅がトップ下に入ると、急にチームの動きが変わった(様に感じた)。何度も富山に襲いかかり、こぼれたボールを嶋田が決めて同点！胸スポンサーをアピールしながらスタンドに駆けつける嶋田にスタジアムも一気にヒートアップ。続く佐藤の決定機はまたしてもGK中川に阻止されるものの、カウンターで押谷が抜け出して...と、ここで再び先週のイヤな光景が甦ってしまったのだけど、今度は見事に決めて逆転！爆発するスタジアム。押谷の笑顔には、嬉しさと同時に安堵感が感じられた。終盤は富山に押し込まれる展開もあったが、粘り強く守って試合終了。今年も「長良川劇場」は健在でした。

まだまだ改善の余地があると思われるゾーンディフェンスなど、課題も出た試合だったと思うけれど、開幕戦を勝利で飾れたことは大きい。今年も、いや昨年以上に「最後まで走りきるサッカー+」で僕らを楽しませてくれる、そう確信できた開幕戦だった。(ささたく)



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休：日曜日(今日は営業しています)



ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)